

# e-dream-s 通信

No. 88 発行：2008年5月10日 特定非営利活動法人 イー・ドリームズ

5月は、e-dream-sの2007事業年度の終わりにあたります。e-dream-s通信5月号では、2007年度の活動を振り返るとともに、新たな年度につなげる記事が寄せられました。山田理事からの「サンフランシスコ便り」も届いています。それでは5月号をお楽しみください。

## 目 次

- |                                     |      |      |
|-------------------------------------|------|------|
| 1. 2007事業年度を振り返る5月に                 | 中川房代 | p. 2 |
| 2. 変わり目の季節                          | 井川好二 | p. 3 |
| 3. 小さな教室からつながる大きな世界                 | 塚本美紀 | p. 7 |
| 4. 日本の学校からささやかな発信の試み                | 道面和枝 | p. 8 |
| 5. <サンフランシスコ便り9号><br>初めてのアメリカの歯医者さん | 山田昌子 | p. 9 |



カンボジアの首都プノンペンにあるThe Royal Palaceで見かけた修行僧たち。

(撮影 2008.2 道面和枝)

# 2007 事業年度を振り返る 5 月に

中 川 房 代

5 月は、e-dream-s の事業年度の最終月である。

“なんと中途半端な？”と思われる方も多いでしょう。国や地域、分野によってそれぞれ「年度」というものがあり、学校制度だけを見ても、日本は4月から3月であるし、アメリカなどは9月から8月、韓国は3月から2月...などとなっている。

e-dream-s は事業年度を6月から5月としている。

NPO 法人は法律に沿って設立、運営されなければならないという社会的責任を負っている。その1つとして、法律で「事業年度」を決め、事業年度終了後3ヶ月以内に事業報告や財務関連の書類等を所轄庁（大阪府庁等）に提出することが義務づけられている。e-dream-s を NPO 法人として設立するとき、いろいろと考えた末、6月からにした。事業報告を提出する際に、事業の総括・方針を確認する「会員総会」を開くとしたらその時期は8月末にする方が都合がいいのではと考え、ならば事業年度は6月からにしよう...というのがその理由である。

さて、2007 事業年度の e-dream-s はどうだったのか。詳しい事業総括は、6月7日～8日に開く「第28回理事会」で論議することになるが、2007 事業年度の主な事業としては、8月の東京での ECAP 2007、2月のカンボジア英語教育学会 CamTESOL での2本の研究・実践発表が挙げられる。

ECAP 2007 では、2003 年から始まった ECAP の歴史上、初めてとなる生徒の参加が実現した。それまでは、日本の英語教師、韓国の英語教師、Native Speaking Teachers の3者で、授業実践や文化・英語教育に関する意見の交流や交換、発表を行ってきたが、今回はそれに生徒が加わった。これまでの成果を、生徒に対してライブで伝える、という取り組みだった。私たちはこの ECAP 2007 東京の成功で大きな自信と成果を手にし、次回 ECAP 2008 は、韓国で、韓国の生徒に対して日本文化を伝える取り組みにしようと思いつつ ECAP 2007 を閉幕した。先日、ECAP 2008 実行委員の岡崎さんと藤本さんが訪韓し、韓国の先生方と ECAP 2008 の打ち合わせをしてくださった。今後も e-dream-s・ACROSS の事業として年々発展する ECAP として開催を継続していきたい。

教育支援事業の調査事業として位置づけたカンボジア CamTESOL での発表ツアーも、e-dream-s にとって画期的な取り組みであった。発表者に選ばれたことも名誉なことであり、ECAP という私たちのプログラムを紹介できたこと、実際にカンボジアを訪問し、カンボジアを感じてきたこと、今後私たちがコンタクトをとり、教育支援の道を探っていけるであろう可能性を持った多くのカンボジアの英語教師に出会うことができたことが大きな成果と言える。2008 事業年度は、そのカンボジア人英語教師を日本に招待してカンボジアの社会や英語教育の話をしてもらうことも検討していきたいし、来年の CamTESOL 2009 に向けても、発表ツアーを実施したいと考えている。

既に、2008 年事業年度に繋げる取り組みは始まっている。第28回理事会では、きちんと総括し、次年度方針を論議できる機会にしていきたい。

# 変わり目の季節

井川 好二

「悪いけど、痛み止め、持ってへんか？」

「どないしはりましたん？」

「歯痛」

「そりゃ大変」

「急に痛おなって・・・」

「たしか、頓服があったと思います」

「頼むわ・・・」

馴染みの店へ寄るつもりで、駅を降りた途端の奥歯の疼き。改札を出て途中で薬局へと思いながら、いつもの道を辿り、気がついたら、店の暖簾をくぐっていた。

急な痛みとは云え、ちょっと前から兆しはあった。数年前までちよくちよく経験している、いわば馴染みの痛み。最近また忙しくなって、疲れは弱いところにでると分かっているが、薬さえめば大丈夫と勝手に決めて、頓服まで女将に頼む仕儀とはなった。

「おおきに。これで大丈夫」

「効いてきました？」

「いや、まだやけど、もうすぐや」

「久しぶりどすな、センセの歯痛」

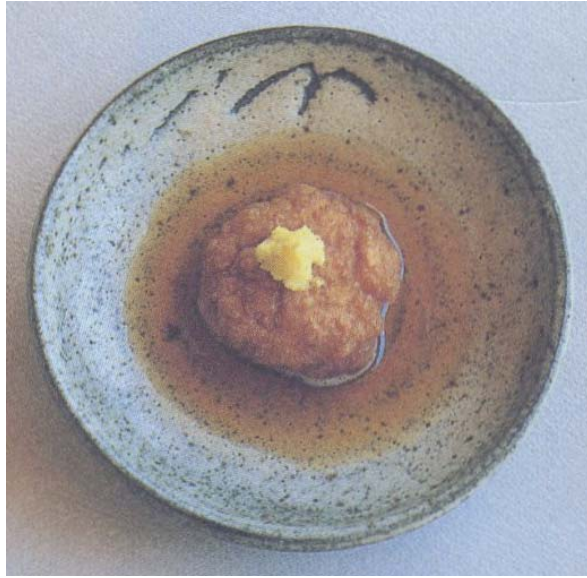
「うん、懐かしい痛みや」

「お疲れが、でたはるんどすな」

ビールは歯に滲みるからと、いつもの日本酒「久保田」を常温で飲み始める。肴は、飛竜頭<sup>1</sup>。固いものや、冷たいもの、味の濃いものを外して、見繕ってくれたのも、丁度いい。薬も次第に効いてきて、歯に滲みる痛みも遠のいた。これでもう少し酒が飲めるとするのは、良いのか悪いのか。

---

<sup>1</sup>つぶした豆腐とすりおろした山芋を混ぜ合せ、針牛蒡はりごぼう・木耳きくらげなどの具を混ぜ、丸めて油で揚げた食品。がんもどきの関西での異称。ひりゅうず。[株式会社岩波書店 広辞苑第五版]



### 飛竜頭

「この間、前の学校の連中に、久しぶりで会うてん」  
「へええ、今のところへ変わらはってから、もう5年目どすか？」  
「そや、みなエライ老けとったで」  
「また、そんな悪口云うて」  
「けど、ホンマや。20人ぐらい集まってたけど、平均年齢高かったなあ」  
「せんせ！」

かつての教え子で、部下でもあった女教師が、早めに退職をすると云うので、昔の仲間と送別会。最近体調を崩したのを契機に、今までの仕事に追われるばかりの人生を、一旦休止して、体力を取り戻してから、第2の人生を生きるつもりだと云う40代後半。人生、変わり目の季節である。

「その方、辞めてどうしはるんどす」  
「まあ、身体しっかり直してから」  
「そうどすな」  
「この間は、何にも云うてなかったけど、何でもできるやろ」  
「40代って、まだまだ、これから何でもできるって感じどす」  
「そや。第2の人生かて、早よ始める方が、案外、エエかも知れん」  
「ホンニ」

80年代の初め、駆け出し教員だった私は、30数名の学生を引率して、語学研修のため1ヶ月間、サンフランシスコ州立大学の寮に滞在した。彼女はその頃の学生で、サンフランシスコへも一緒に行った。

あれから30年近い年月が経ち、50前の彼女は退職すると云う。自分より若く、いまでも学生だった頃のことを覚えているその彼女が、退職して第2の人生などと云うのに、少なからず戸惑いも感じるが、

<sup>2</sup> 水上勉 (1997) 「精進百撰」 東京：岩波書店。p.70.

それも彼女すれば自然の成り行きなのか。

こっちは、4月から仕事が一気に忙しくなって、連休を終えた今でも、身体がついていってない。サンフランシスコ州立大の大学院には、去年の夏から友人が留学中で、今年の夏あたり、再訪できればと思っていたが、仕事の都合がどうしてもつきそうにない。私の潮目も微妙に変わってきているらしい。

「歯のお加減はどうです？」

「おかげさんで、もう痛ない」

「よかった」

「女将のおかげや」

「センセ、春から偉なりはって、お疲れが溜ったはるんどすな」

「いっことも偉いことない。エライのは身体や」

「けど、気いつけはらんと」

急に仕事が忙しくなって、会議が増えて気を遣うやら、書類づくりに肩をこらすやら。眼のかすみ、腰の重さ、脚の浮腫。そこへ歯痛が加われば、ちょっと深刻。やはり、歳の所為。来年はなんと還暦である。しかし、ここを乗り切らないと。

あちこち具合が悪くなっているのは、こっちの歳の所為と、客観的に考えれば分かっているけど、仕事が忙しい所為と云って、女将が気遣ってくれるのは、どこか面映くもあり、やはり嬉しくもある。日本酒がいつもに増して進むのは、頓服が効いて、歯痛を気にしなくてよくなったからばかりではない。

若狭<sup>3</sup>からエエのんが入ったのでと、今夜のメイン「ぐじ<sup>4</sup>」が運ばれてくる。白甘鯛を京都では、ぐじと呼ぶ。一塩して酒焼きにしてある。身はあっさりとして、しかも、ほっこり豊潤。仕事疲れも忘れる味わいである。

---

<sup>3</sup>旧国名。今の福井県の西部。若州。[株式会社岩波書店 広辞苑第五版]

<sup>4</sup> シロアマダイ（別名シラカワ）は体色が白っぽい。魚屋の店頭でもっとも普通にみられるのはアカアマダイで、大阪地方でクズナ、京都地方でグジとよばれている。(C)小学館【SuperNipponica2003】



若狭のぐじ<sup>5</sup>

海から遠い京都へは、古来、日本海岸の若狭から魚を運んだ。その道は「鯖街道」と呼ばれていたが、美味なのは、無論ぐじであった。「やらこうて、齒にも優しおすやろ」

少子化の進行で、大学の経営はどこでも難しくなっている。生き残るためには、教員による研究の充実もさることながら、学生の教育を改革する必要がある。

その為にはいろいろ手を打たなくてならなくて、私は現在その仕事に動員されている。これは私の勤める大学だけの事情ではなく、日本中の大学が知恵を絞り、改革に取り組もうとしている。そしてその改革の成否が、未来の日本の国力に直結している。いや、グローバル化が進む現代では、世界中の大学で同じ事情なのかもしれない。

さまざまな事柄が変わり目の時期を迎えている。ここをしっかりと乗り切らないと、未来は暗い。(Sunday, May 11, 2008)

---

<sup>5</sup>吉岡幸雄 (2004) 「京都人の舌つづみ」 東京：PHP選書 p. 64



# 小さな教室からつながる大きな世界

塚本美紀

サンフランシスコ州立大学に通っている山田理事に、インターネットのテレビ会議システムを使って、私の生徒に授業をしていただくことになった。別の件でメールのやり取りをしているときに、「だったら、うちの生徒にテレビ会議で授業をしていただくというのはいかがでしょう？」の私の一言に、山田理事からすぐに「面白そう！」との返信が帰ってきたのが始まりで、話はとんとん拍子に進み、山田理事のクラスメートも参加していただいて、5月23日の午前10時30分から授業をスタートすることになった。その話を生徒にすると、なんだかきょとんとしている生徒もいる。うまく話が呑み込めていないのかもしれない。一方では、他のクラスの生徒が、自分も参加させてもらえないかと言う。

私の学校では3年前から月に一度、アメリカの学校とテレビ会議を行っているが、参加しているのはほんの一部の生徒にすぎない。今年は、もっと多くの生徒がこの経験ができるよう、「世界と教室をつなげよう！」をキャッチフレーズに、いろいろな授業でテレビ会議を行うことをたくらんでいる。そんな中で、山田理事のすばやい対応と全面的な協力は本当に心強い。小さな教室が、実は大きな世界につながっていることを、生徒と一緒に感じたいと思う。

話が急に変わって恐縮だが、来月13名のベトナム人高校生とその引率のベトナム人教師が私の学校にやってくる。日本政府が昨年から5年計画で進めている「21世紀東アジア青少年大交流計画」の一環である。これは、アジアの強固な連帯の土台を作るとともに、この地域での良好な対日感情の形成を促進することを目的に毎年6000名の青少年を日本に招待するというものだ。去年は隣の町に数十名の中国人高校生がやってきた。この小さな町に住んでいても、次々と外の世界の人々がやってくる。目の前にいる私の生徒たちは、その準備はできているだろうか。私は、毎日の授業で、彼らが大きな世界に出て行くための力をつける機会を提供できているだろうか。それ以前に、私自身は大丈夫か。

私の仕事の場所である小さな教室と、その外に広がる大きな世界とを、しっかりつなげていくことが英語教師としての私の使命だと思う。教室の扉を常に開いて、自分がちゃんとやれているか、いつも確認したいと思う。

# 日本の学校からささやかな発信の試み

道面 和枝

私が勤務する中学校では、本年度、県から英語教育推進の指定を受けることになった。それにもなつて英語指導教員（NST）が1名、臨時採用教員として配置され、その指導教員と共に「英語が使える中学生」をめざして、新たな取り組みをすることとなった。

校内暗唱大会の開催など、本校の英語科教員で計画したものの一つに、「学校のホームページの英語版作成」がある。

以前から、本校のホームページに「英語科の授業」のコーナーを設け、英語の授業で生徒たちが書いた英文（将来の夢、学校生活についてなど）を載せたいとは思っていたが、それはあくまで「書くことの表現活動の紹介」としてであり、対象は日本の英語科教員、あるいは英語教育に興味を持つ人としか考えていなかった。そうであれば生徒も、だれに向けて書くでもなく、ただ「本校の英語授業の紹介」として自分の作品が紹介されている、と受け止めて終わりであったろう。

しかし、「日本の中学生がどんな将来の夢を持っているのか、どんな学校生活を過ごしているのかを、学校のホームページを通じて、世界中の人たちに知ってもらおう。」という視点を持たせたら、生徒たちはどのような英文を書くであろうか。たとえば「将来の夢」について、考えている事をただ英語に直しただけよりは、英語で「伝える相手」を具体的に意識した、よりリアルな英文になりはしないか・・・などと考えると、何だかワクワクしてくる。

「英語で書いた平和メッセージ」をニューヨークに届ける、という取り組みを毎年中学2年生にさせている。生徒たちは「自分が書いた英文が、ささやかながら世界平和に貢献するかもしれない」体験に、いつも以上にはりきって英文を書いている。今度は、「自分が書いた英文がインターネットを通じて世界に配信される」という体験をさせたい。だれを情報の受け手として考え、「何を」発信したらよいか、これも生徒と一緒に考え始めたころである。

たとえば、今年本校の総合的な学習で行う「平和学習」、佐々木貞子さんの物語を英語で読んだ感想や、平和公園に出かけて語り部の人たちの話を聞いて感じたことを英語で書いてホームページにアップすれば、日本の生徒たちがどのような平和学習を行っているか、どのような平和への願いを持っているかを、他の国々に知ってもらうことができる・・・そのようなことを、生徒と共に夢見ている。

5月中旬に着任する英語指導教員（NST）は、幸いコンピュータの知識が豊富な人だと聞いている。どんなことができるか未知数であるが、日本の学校から、ささやかな発信ができればと願っている。



## 初めてのアメリカの歯医者さん

理事 山田昌子

5月1日（木）数週間前からなんとなく歯茎が腫れ、少しだが痛みを感じるようになり、腫れが大きくなってきた。<これは放っておくわけにいかない！>ついに「歯医者さん」行きを決断。留学生は保険加入をしなければクラス登録ができないが、歯科は任意保険。<入っていてよかった！>

でも、どこの歯医者に行けばいいのかわからない。大家さんに聞いても、現在行っておられるところは芳しくない様子。自分の保険のホームページで調べることにした。"Find Doctor"というボタンを押し、近くの歯医者を探した。腕がいいのかどうかわからないまま、近所のNoriega Streetにある歯科に決め、電話をする。



Noriega Street

「予約したいんだけど、保険、使えます？」「どこの？」「Blue Cross」「何それ？」「Wells Fargoだったかな？」「それ銀行でしょ！」保険証に書いてある保険会社の名前が通じると思ったら大間違い。それに私の知識もあいまいだ。「もう一度調べて電話します」すぐに予約がとれる日本の感覚で電話をしている私は、自分がアメリカにいることを再確認した。<保険会社によって保険が使える歯医者が違うなんて、なんて面倒くさい国なんだろう！<sup>6</sup>兎に角保険証さえあればどこの医者にも行ける日本は、なんて便利な国なんだろう！>おっちょこちゃいは今に始まったことではないが、失敗続きの私は、また恥をかいてしまった！

ホームページ等を見ると、Wells Fargoという銀行が、同時に保険関係の仕事もしていて、カリフォルニア州立の大学が利用し、実際の業務は、Anthem Bluecross of Californiaという会社がやっているということがわかった。

再度電話をして、保険の会社名は理解してもらえた。が、「それ、PPOなの？それともチェーモなの？」「チェーモって何？・・・どんな綴りですか？」「HMO」（なーんだ、これも略字なんだ）「どう違うのですか？」「HMOなら保険会社で相談してから歯医者にくることになるし、PPOなら直接歯医者に来る

<sup>6</sup> 後日大家さんにこの話をしたら、彼女の保険証ではこの歯科には行けないと聞いた。

ことができます。」 「そう、でも保険を買った時何も言われなかったし、保険証が送られてきた時も説明書はなかったわよ」 「・・・」 「じゃあ、どちらかわからないので、再度電話します」 段々恥ずかしいというよりも、アメリカの制度がわからないだけだから「まあいーつか」という心境になってきた。

またまた保険会社に電話。「あなたの場合は、PPOです」 「じゃあ、直接歯医者にいけるのね」 「そうです」

かくして歯医者に3度目の電話をして予約完了。幸いその日に予約ができた。行ってみると、いつも洗濯をしているコインランドリーの2軒先だった。待ち合い室は小さく、6つのいすが置いてあるだけ、受付の方は3名、始終電話はかかり忙しそう。個人情報（住所や既往症等）を書いている間に私の番になった。



白いドアを開けると、治療台が3台あり、私は一番奥に通された。歯医者さんは3名。治療台にのぼったがなんだか落ち着かない。<そうだ、靴はどうするのかしら？アメリカやし脱ぐのは変やね。>心の中でつぶやく。エプロンをかけに来てくれた人に尋ねた。「あのう、靴は脱がなくてもいいですよねえ？」 「ノー」 <変な質問する奴やと思っているやろうねえ> 「日本では靴は脱ぐし、やっぱり日本とは違いますよね」と言いながら、私は思わず愛想笑いをした。私の背丈には大きすぎる治療台に乗っていると、いくら靴のあたりはもう1枚ビニールが敷いてあるとはいえ、靴を履いたままというのはなんだか落ち着かない。<何度もここに来ていたら、そのうちこの感覚も薄らぐんやろうなあ。いやいや何度も来たくはないんだけど・・・。>

そうこうしているうちに、レントゲン技師さんがレントゲンをとり、それから女性のお医者さんがやって来て自己紹介をされた。中華系の方だった。でも受付の電話の方とは違い、英語はわかりやすかった。<さっき、検査、クリーニング、治療の順にやるって、レントゲン技師さんが言っていたっけ。じゃあ、次はクリーニングか。>とりあえず、現在の私の症状を話し、診てもらった。「わかりました...レントゲンの結果を見てから、説明しますね。」とても親切で優しい感じ。クリーニングの間も、見た目程大きくない私の口を「Open!」と言って開けさせながら、「ずっと開けているのは疲れるよね」と同情を示してくれる。日本ではクリーニングでも痛みを感じる時があったけど、ここではほとんど痛みを感じない。丁寧だ。

「菌がはいって感染したみたいですね。詰めてあるものの隙間のようなので、歯ブラシで磨いても無理ですね。詰め物は取ってしまうと後でつけるのが大変なので、はずさないでやりましょう。」彼女のわかりやすい説明になんとかほっとした。「この治療の専門の方と代わります。」

先生が「スペシャリスト」と言った女性がやってきて、私はまず水で口をゆすぎ、次にピンクのうがい薬を30秒ゆすいで、終わり。歯医者に行くか行こまいか、散々悩んだのに、簡単すぎて気が抜けてしまった。<現在は、腫れもおさまりつつある！！>

次の予約も、水曜と金曜のどちらかというチョイスしかないけれど、「あなたの好きな時間に来てくれたらいいからね。いつがいいですか？」という具合。次回は16日(金)9時に決めた。初回の費用(恐らく初診料)\$25以外は、保険がきくので、以降無料。こんなに親切で痛くないのなら、治療が終わっても、クリーニングにまた来ようかな！

秋学期(Fall 2008)の授業の登録をするのに、授業料と保険料(1年分)を払い込んだけど、9月からの歯の保険の手続きはまだしていない。絶対任意保険に入っておかなくっちゃ！！

<編集後記>

5月を年度の区切りとし、6月の理事会では、新年度の新たな方針や具体的な活動が提案されることと思います。次号での報告を楽しみにしています。

一人ひとりが何か新しいことに挑戦していく機会を与えてくれるのが e-dream-s であると感じています。さて今年は何を！？ (道面和枝)